

新平さんの大風呂敷

新型コロナウイルスの感染拡大で、2020年12月・2022年3月と公演が見送られ、やっとこの2023年2月に上演することができました。2年半もの間、様々な問題を乗り越え遂に実施できた2回公演。多くの感動を呼びました。

【スタッフ約100人が後藤新平の生涯を描く】

市民劇「新平さんの大風呂敷—後藤新平物語—」が、奥州市文化会館（Zホール）で2月11日と12日の2回上演されました。新型コロナウイルス禍で、2度の延期を経て、ようやくの本番。

本公演の第一幕「日清戦争帰還兵検疫事業」は、極めて印象的な幕開けです。中国大陆で蔓延していた「コレラ」への水際対策として行った新平の検疫事業が、新型コロナ対策で後手後手となっている現在と比して、大きな注目を浴び、



岩手めんこいテレビ
2/8（練習風景）より

数多くのメディアで全国に紹介されました。「現代の日本に後藤新平はいないのか!」という見出しは、郷土の先人である後藤新平の面目躍如たるものがありました。

後世に残る後藤新平の数々の仕事は、必ず多くの高い壁がありました。それを乗り越えてきたからこそ、その功績が現代に伝えられています。今回の公演も、どこか似たような経緯を辿っているような気がします。多くの困難を乗り越えて今回の本番を迎えました。スタッフやキャストの皆さんの熱い思いが、感動をもってお客様の心の中に刻み込まれました。

（左は、物語の進行役講師：衣川青凜会佐藤もと凜さん。講釈台と張扇が名調子を生む。）



【後藤新平顕彰会：演劇キャスト、会場スタッフ等到大活躍】

「後藤新平顕彰会」は、協力団体となっており、チラシやポスター配布・チケット販売等大車輪の活躍をしました。また、舞台上には、晩年の総長役を務めた高橋力副会長を始め、板垣退助や須賀川町民・東京市民役等で7人の方々が出演。舞台裏の受付・案内等には、9人の方々が携わってくれました。大きく盛り上がった市民劇に、「顕彰会」の貢献大!



2/12胆江日日新聞より
フィナーレ「自治三訣」唱和



【臨時展示中「絹刺繍花図柄屏風」（日韓基本条約締結時：椎名外務大臣へ寄贈）】

椎名資料公開シンポが、3月5日（日）「えさし郷土文化館」で開催されます。それに先立ち、2月17日東北大学伏見教授が当館でプレスリリースを実施。シンポまでの期間、関連資料が当館に臨時展示されています。中でも、この豪華絢爛な屏風は目を引きまします。短期間です。お早めに鑑賞を!



【1965.6.22 条約調印式】

